

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(逗子市立小坪小学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

I 子どもたちの学力向上

○学校教育総合プランの項目

1 個に応じた指導の充実

実施計画

①実施計画の重点等

- ・基礎的、基本的な知識及び技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業づくりに取り組む。
- ・支援教室の立ち上げ、運用に組織的に取り組み、支援教育のさらなる充実をめざす。

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- *読書活動をはじめ、様々な学習支援ボランティアを、保護者・地域から募り協力を依頼する。
- *家庭学習について、保護者に協力を依頼する。
- *支援教育充実のため、教育相談コーディネーターを中心とした組織の充実と関係機関との連携を進め、組織的な対応をめざす。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	①校内研究で得られた成果を具体的な授業の中で活かす実践を積み上げる ②基礎・基本の習得のための指導の工夫に取り組む	①研究の成果を踏まえた教育課程の見直しに着手する ②基礎的・基本的な知識・技能の習得のための指導の工夫をさらにすすめ、定着度について検証する	①教育課程の見直しをさらに進め、改善を図る。 ②基礎的・基本的な知識・技能活用を図る学習活動を重視していく。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価)① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①「コミュニケーション力の育成」を目指した研究の成果を授業実践に活かすことができた。 ②基礎・基本の習得に向け、児童の実態把握から、指導法の工夫・改善に努めた。	成果と課題 ①研究の成果を踏まえ新たな課題として「既習事項を活かす」ことにより、より「確かな学力」を育むことにつながった。 ②基礎・基本の習得に向け、児童の実態を把握し、習熟度別の指導体制を取り入れるようになった。	成果と課題 ①算数教科教科研究の成果を教育課程に活かすことができた。 ②基礎的・基本的な知識・技能が活用できる授業を目指し、考えを表現できる児童を育てる手立てについて研究を進めた。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①各教科等における「言語活動の充実」のあり方について再確認する ②コミュニケーション能力の育成に取り組んできた成果を授業を通して検証する	①「逗子市読解力向上プラン」を通じて言語活動のさらなる充実を図る ②各教科等において「言語活動の充実」をめざすうえで「さらに育てたい力」を明確にする	①読解力向上に向けて、学年ごとに授業実践を検討し、改善を図る。 ②各教科等において「言語活動の充実」をめざすうえで「育てたい力」を明確にした授業実践に取り組む。
	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①研究のまとめとして成果と課題を共有するため、提案授業の教科を絞ったため、各教科における「言語活動の充実」については全体で確認することができなかった。 ②2年間の研究のまとめとして成果を授業を通して検証することができた。	成果と課題 ①読解力の充実に関しては各教科の学習において意図的に取り組んだが、「読解力向上プラン」の活用には至らなかった。 ②各教科で「育てたい力」を意識することにより、言語活動の充実についても取り組むことが出来た。	成果と課題 ①各学年、テーマをもって授業研究に取り組み、改善を図ることができた。 ②授業のねらいを明らかにし、児童と共有しながら学習を進める手立てを研究することができた。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 読書活動の推進	①読書活動につながる教育内容・指導方法を工夫し実践する ②家庭との連携を図り、読書の習慣づけを図る	①各学年、各教科で、図書室を利用した学習を推進する ②継続して、読書の習慣化をめざし、取り組む	①市立図書館と連携し、学校図書館の学習情報センターとしての機能の高める ②発達段階に応じた読書活動のあり方を検討し、多様な活動を展開する。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①朝の一斉読書等、読書活動の充実については計画的に取り組んだ。 ②読み聞かせボランティアの活動を通して保護者にも読書の習慣づけの重要性を啓発した。	成果と課題 ①各教科の学習において、問題解決的な授業計画が充実し、図書室を利用する機会が増えた。 ②引き続き、読み聞かせボランティアの活動を通して保護者にも読書の習慣づけの重要性を啓発した。	成果と課題 ①各学年の学習内容に応じて、多くの教科の中で問題解決的な授業に取り組み、市立図書館での本を活用した。 ②読み聞かせのボランティア活動を通して保護者にも協力していただき、図書委員会でも低学年に向けて読み聞かせなどの活動を行った。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①支援教室立ち上げ、教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の機動性を高める ②スクールカウンセラー・支援教育推進巡回指導員・うるおいフレンドの活用をすすめ、保護者と学校が子どものニーズに対して共通理解を深め、協働して支援の充実を図る	①支援教室の活用方法について検証し、支援の充実を図る ②保護者・地域に対して校内支援体制についての情報を発信し、理解を深める	①校内支援体制のさらなる充実をめざし、研修等も設定し、教職員の指導力の向上を図る ②子どものニーズの多様化に対応し、地域の教育力の活用も検討する。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心とした支援教育の組織的な取り組みの充実を図ることができた。 ②支援教育推進巡回指導員による各教室の見取りを充実させ、必要に応じて支援会議を行い、組織的な支援の充実を図った。	成果と課題 ①支援教室の運用が具体化し、個別支援が組織的に行われるようになった。 ②校内支援体制の取り組みについて、保護者、地域に情報発信し、理解を得ることができた。	成果と課題 ①支援の必要な児童についての研修を随時行い、日々の授業に生かすことができた。 ②学生ボランティアなども積極的に活用した。

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(逗子市立小坪小学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

I 子どもたちの学力向上

○学校教育総合プランの項目

2 健やかな心と身体の育成

実施計画

①実施計画の重点等

- ・集団生活をより楽しく、充実させるため、道徳の時間を中心としてあらゆる教育活動の中で、社会のルールやマナーを身に付けるように、取り組む。
- ・たてわり集団活動を意図的に取り入れ、学校行事等による豊かな体験活動を推進する。

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- *行動目標に関して、保護者・地域に対して周知し、協力を求める。
- *地域の方々へ学校での活動を積極的に公開し、学校に理解と協力を求める。
- *地域教育力を積極的に活用し、豊かな体験活動を推進する。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 基本的な生活習慣の育成	①あいさつ運動を推進し、規律正しい生活の中で基本的な生活習慣の向上をめざす ②家庭と連携し、食習慣や家庭学習を含めた生活習慣の確立をめざす	①学校・家庭・地域の情報や行動の情報交換を密にして連携を深める ②保護者・地域の方々を対象とした講演会や研修会を行い、それぞれが担うべき役割を再確認する	①食育・健康教育・保健教育等の取組を通して、基本的な生活習慣の定着の成果を検証する。 ②児童自らが自分の生活習慣を見直し、自立への意欲を持てるような取り組みを行う。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した
	成果と課題 ①あいさつの重要性を折りに触れて指導し、行動目標としてあいさつの定着に取り組んだ。 ②給食便り、保健便り等を定期的に発行し、基本的な生活習慣の定着の重要性を伝え、意識の向上を促した。	成果と課題 ①行動目標を「あいさつ」として設定していることが地域、保護者に理解され、その視点からの学校理解が深まった。 ②引き続き、給食便り、保健便り等を定期的に発行し、基本的な生活習慣の定着の重要性を伝え、意識の向上を促した。	成果と課題 ①基本的な生活習慣の大切さについて様々な場面で指導をおこなったが、成果を検証するには至らなかった。 ②「自分の健康は自分で守り育てる。」ことができる子どもの行く育成を目指して、給食・保健便りを発行し、掲示物等を作成した。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	①道徳の時間を要として様々な学習活動の中で、発達段階に応じた人権意識の育成に取り組む ②異年齢集団の活動を通して、規範意識の向上を図り互いに思いやる心情や、奉仕的な心情を養う	①さらに道徳の授業の充実を図り、人権意識の涵養、命について考える機会とする ②学校支援地域本部と連携し、地域の人材・環境を生かした道徳の授業実践を展開する	①教育課程全体を見直し、様々な教育活動におけるねらいを明確にする中で道徳授業の充実を図る。 ②全体計画を見直し、地域との連携の中で、6年間を見通した実践的な道徳教育の推進を図る。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	成果と課題 ①道徳の時間を要として人権に関わる指導を意図的に進めてきたが、教育活動全体に関わる必要があるため、今後さらなる充実を目指していく。 ②全校で「たてわり班」を構成し年間をとおして「たてわり活動」に取り組み、成果を上げた。	成果と課題 ①道徳の時間だけでなく、学校生活全般を通して、命について考える機会を設定した。 ②地域の教育力の活用は様々な場面で意図的に活用したが、道徳の授業実践に結び付けることは難しかった。	成果と課題 ①様々な教育活動の中に道徳の視点を取り入れ取り組むことが意識されるようになった。 ②6年間を見通した道徳教育の推進には至らなかったが、「特別な教科道徳」について理解を深める中で今後達成し

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 豊かな体験活動の推進	①たてわり集団を組織し、学校行事の中で活用していく ②学校行事・児童会行事を通して育てたい力を明確にし、内容の充実を図る	①たてわり集団での活動を積み重ね、主体的な人間関係作りに取り組む ②学校行事・児童会行事を通して問題解決的な学習を進める	①たてわり集団での活動を積み重ね、主体的な人間関係作りに取り組むとともに思考力・判断力・表現力の育成も意識して取り組む。 ②体験活動で育てたい力を明確にし、6年間の指導の体系化を図る。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①たてわり班を活用し、運動会、遠足等の学校行事を企画することができ、リーダーシップとフォロワーシップの育成に取り組んだ。 ②学校評価の充実を目指す中で、学校行事での「つけたい力」を学校全体で共通理解するにつれて	成果と課題 ①たてわり班の活用が学校行事の中心として位置づいてきた。 ②学校行事での「つけたい力」を学校全体で共通理解するように努め、指導と評価の一体化が定着しつつある。	成果と課題 ①高学年が低学年に適切にリーダーシップをとり、活動を行っている様子が見られた。低学年は高学年に協力しようという姿が見られるようになった。 ②低、中、高とそれぞれのめあてを明確にして取り組んだ。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	①食に対する正しい知識と望ましい食生活・食習慣を身に付けるための食育指導に計画的に取り組む ②発達段階に応じた禁煙・薬物・性教育等の健康教育を推進し、家庭へも情報発信	①各学年の食育に関するこれまでの取り組みを体系化していく ②健康教育を推進する中で、健康の意義について保護者の理解を深める	①食育について、授業を保護者にも公開することで改善を図る。 ②健康教育にを通して、自己認識を深める指導のあり方を探る。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ①達成できなかった ②達成した
	成果と課題 ①各教科の指導内容から食育に関するものを洗い出し、意図的に取り組むことはできたが、学年ごとの段階等また、今後さらなる充実が必要である。 ②養護教諭を中心に発達段階に応じた健康教育を推進することができた。	成果と課題 ①栄養教諭による食育指導が充実してきたが各学年の体系化までには至っていない。 ②養護教諭を中心に発達段階に応じた健康教育を推進するとともに、保健だより等で保護者に意図を周知していくことができた。	成果と課題 ①各学年で食育の授業を行ったが、保護者への公開は今後の課題である。 ②自分の心と体について理解を深め、自他共に尊重することができる子どもの育成を目指した。

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(逗子市立小坪小学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

○学校教育総合プランの項目

1 多様な教育的課題への対応

実施計画

①実施計画の重点等

- ・防災・安全教育を推進し、児童が自他の命を守るための思考力・判断力・行動力の育成に努める。
- ・いじめや不登校等、心に関わる課題に対して、早期発見、迅速かつ組織的な対応に努める。

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- *多様な教育課題に対しては、取り組みのねらい、方法、内容等の共通理解を図りながら、計画的にすすめる。
- *児童の安全確保に関し、学校と保護者・地域との連携を深め、通学路の点検やパトロール、災害時の安全確保等協力を依頼する。
- *心の諸課題については日常的にきめ細かく対応するとともに、早期解決のため関係機関と連携を図る。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 学校安全の推進	①児童自らが体験を通して危険予測・危険回避の能力を培うため、安全教育を計画的に実施する ②児童の安全な学校生活の確保と緊急避難所としての機能向上のため、環境整備に努める	①各教科の中で思考力・判断力の育成を充実させることにより、児童の危機管理能力を向上させるような実地訓練を計画・実施することを含む、防災教育の充実を図る ②様々な、災害を想定し、安全確保のため	①地域の子どもを地域で守るという意識の醸成に向けた発信をより充実させる。 ②危険回避能力の育成を目指し、日々の教育活動のなかで意図的に取り組む。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①訓練だけに終わらない防災教育のあり方を意識し日々の教育活動の中に位置づけてきた。 ②PTAと連携し、避難路の整備、非常食の備蓄に取り組んだ。	成果と課題 ①資料を活用しながら、各学年の発達段階に即した防災教育を道徳の授業等教育課程上に位置づけた。 ②大規模災害の想定を拡大し、避難の仕方を検討、実践するなど環境整備を推進した。	成果と課題 ①防災教育に活用できる資料等そろえ、各学年での指導の充実に努めた。 ②校外学習の際などに、大規模災害が起きた場合の行動について指導した。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 問題行動への対応の推進	①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立するとともに、様々な場面をとらえ、児童の規範意識や温かい人間関係作りを推進する ②児童理解を深めるための研修を実施し、問題行動への対応について、教職員の共通理解を図る	①校内相談体制の向上を目指し、外部機関との連携をさらに推進する ②児童理解に対する校内研修を充実させ、問題行動の予防的指導に取り組む	①家庭や外部機関との連携を推進し、さらに組織的な対応を目指す。 ②児童理解に対して事例研究を中心に研修を進め、人権等に配慮した学級・学年・学校経営をすすめる。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①朝会や学級指導を通して、ルールの大切さを指導し、規範意識の醸成に努めた。 ②児童指導に関する研修を年間を通して実施し、児童の様々なニーズへの対応力の向上に努めた。	成果と課題 ①スクールカウンセラーや支援教育推進巡回指導員のアドバイスのもと、支援教室の運用を具体化することができた。 ②児童指導に関する研修が定着しつつあり、日々の実践の中で活用することが出来ている。	成果と課題 ①必要な場面でケース会議を実施し、組織的な対応を行った。 ②児童理解に関する研修を行い、それらを生かして人権などに配慮した学級・学年・学校経営を行う努力をしている。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①個人情報の保護に十分配慮しつつ、幼保小中の連携を進め、学校生活の安心安全の向上を図る ②小中連携では、体育や外国語活動、行事等で交流を推進する中で、中1ギャップの解消をめざす	①入学時に幼・保だけではなく、教育研究所や療育関係機関とも連携し、児童に対する職員間の共通理解、情報の共有も図る ②小・中連携では行事や授業だけでなく、児童指導、生徒指導でも理解と連携を推進する	①幼稚園・保育園と相互の参観等を推進し、課題を共有しつつ個々の役割の明確化を検討する。 ②9年間を見通したカリキュラム上の連携や児童指導の情報交換を推進する。
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①学習面からの幼保との連携を深めると同時に、新入学児童に対しては実際に見学する等して実態把握に努め、いわゆる小1プロブレムの回避に努めた。 ②卒業にあたっては着実な引継ぎに努める等したが、日常的な教科での連携は難しかった。	成果と課題 ①入学児の幼・保参観をきめ細かく行うと同時に療育の観点からの聞き取りも行い指導体制の構築に努めた。 ②卒業にあたっては中学校への着実な引継ぎに努め、担任だけではなく、教育相談コーディネーター同士の情報共有も行ったが行事や授業での接続は難しかった。	成果と課題 ①秋祭りやようこそ集會に、幼稚園や保育園の年長児を招待し、小学校の教育内容を理解してもらえるように努めた。 ②幼・保・小の連携推進委員会での情報交換や、新入学児童の聞き取りを行い、幼・保小間で情報の共有化を図った。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
④ 国際教育の推進	①多様な文化を理解するための学習活動を各学年の発達段階に応じて取り入れる ②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用をはかり、諸外国の文化や歴史・自然等に関心を深めるような取り組みをする	①外国語活動の中でのコミュニケーション力の育成や国際教育における、異文化理解を通して、多様性を尊重し受け入れていく態度を育てる ②各学年の教育課程上に、異文化理解、多様性の尊重を意図した学習を取り入れる	①発達段階に応じた国際理解やコミュニケーション力の育成を推進する。 ②小坪小学校の国際教育のあり方をまとめ、6年間を通した学びを教育課程上に位置づける。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ①達成できた ②達成できなかった
	成果と課題 ①IEA(国際教育指導助手)を活用し、各学年の発達段階に応じた国際教育の推進に努めた。 ②海外の行事について学習の中に取り入れ、楽しみながら諸外国の文化への理解を深めた。	成果と課題 ①IEA(国際教育指導助手)を活用し、各学年で、国際理解のための授業を設定することができた。 ②IEA(国際教育指導助手)の勤務時間等が減り、各学年の授業がイベント的な扱いにならざるを得なかった。	成果と課題①IEAを活用し、授業以外の場面(休憩時間・給食時間等)で子どもたちと関わってもらうことで国際理解やコミュニケーション力の育成を推進できた。 ②IEAとの意思疎通が難しく、授業担当者との打ち合わせと相違があるなど、授業の内容に課題があった。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
⑤ キャリア教育の推進	①キャリア教育について、研修を実施し、子どもの発達段階に応じて、自己の生き方について考える学習を体験的に取り入れる ②総合的な学習の時間の全体計画を見直す	①キャリア教育に対する、教職員の共通理解を図り、取り組みについて検討する ②総合的な学習の時間の探究活動をキャリア発達に即して見直す	①キャリア発達を意識した取り組みを実践し、カリキュラムとして残す。 ②生活科から繋がる6年間の教育活動全体をキャリアの視点で見直し、キャリア教育の充実を図る。
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	成果と課題 ①総合的な学習の時間等で自己の生き方について考える取り組みはなされてきたが学校全体での共通理解を図るための研修の設定は今後の課題である。 ②3～6年の取り組みは全体計画に沿って実践されたが、小規模校の中で、組織的な見直しを図ることは難しかった。	成果と課題 ①総合的な学習の時間の全体計画を見直す中で、キャリア教育の視点を組み込むことの必要性は共通理解してきた。 ②3～6年の取り組みを全体計画に沿って実施するように働きかけたが、キャリア発達に即して活動を設定するまでには至らなかった。	成果と課題 ①たてわり活動の充実を図る中で学年に応じたキャリア発達を意識した取り組みを実践できた。 ②特別活動を中心に取り組んできたが教育活動全体で取り組んでいることの共通理解は図られなかった

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
⑥ 福祉教育の推進	①市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する ②学校生活のあらゆる場面で、発達段階に配慮した人権教育を実施し、人権感覚の醸成を図る	①各学年の福祉体験活動を整理し、小坪の特色を活かした福祉教育の推進を図る ②日常的な人権教育を推進し、人権感覚の向上に意識的に取り組む	①体験からの学びを重視し、体験だけに終わらない日常的な実践力を育てる福祉教育の推進をめざす。 ②人権に対する研修を継続し、人権意識の向上を図るとともに、地域・保護者への発信も充実させる。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	成果と課題 ①総合的な学習の時間において、各学年の発達段階に即した福祉学習の取り組みが推進され地域、外部団体との連携が深まった。 ②日頃から教職員の人権意識の向上に努め、教育活動全体の中で人権教育がなされ	成果と課題 ①総合的な学習の時間において、各学年とも福祉学習に取り組んだが地域の特色を生かすまでには至らなかった。 ②日常の教育活動における教職員の人権感覚をさらに向上させるための研修を実施した。	成果と課題 ①総合的な学習の時間において、「アイアイボランティア」を活用し、日常生活に生かす学習を実践することができた。 ②日頃から教職員の人権意識の向上には努められたが、、地域・保護者への発信の充実には至らなかった。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
⑦ 環境教育の推進	①各学年の年間指導計画の中で環境教育に関わる活動を洗い出す ②地域教育力を活用し、環境に関係する体験的な活動を取り入れる	①環境教育の全体計画を作成し、カリキュラム上の位置づけを明らかにする ②地域や外部団体との連携を深め、環境教育の充実を図る	①環境教育の全体計画を作成し、各学年での取り組みを整理する。 ②児童の環境保護に対する意識を育て、環境保護への体験的な取り組みが日常化するような学びの手だてを構築する。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ①達成できなかった ②達成した
	成果と課題 ①総合的な学習の全体計画の中で、環境教育については4年生に特設されているが、他学年の教科・道徳指導の中でも実施されていることを全体で共有した。 ②支援地域コーディネーターを活用し、ワカメの刈り取り等地域の特性を活かした体験的な活動が設定された。	成果と課題 ①総合的な学習の時間の全体計画の中で、環境教育の位置づけが明確にされているが、カリキュラムの中での洗い出しはまだ着手できていない。 ②支援地域コーディネーターを活用し、環境に関わる体験活動の充実が図られた。	成果と課題 ①4年生・環境保健委員会では計画的に取り組むことができたが、各学年の取り組みを整理することには着手段階である。②環境保健委員会では朝会で劇やクイズなどで環境保護を呼びかけ、川の清掃活動や廃油の石鹸作りを行った。4年生では体験学習や調査活動を充実して取り組み環境保護の意識が育ちつつある。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
⑧ 情報教育の推進	①教員が積極的にICTを活用した授業に取り組むことにより、発達段階に応じた情報リテラシーの育成に取り組む ②情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る	①引き続き、ICT(情報通信技術)機器を活用した授業に取り組み、教員のスキルの上昇を図る ②情報活用能力の伸長を通して、判断力・表現力を養う	①情報活用能力の発達段階に応じた指導のあり方を検討し、学校全体で取り組む。 ②学習の様々な場面でICTの効果的な活用がなされるように意図的に取り組む。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①各教室のICT環境を活用し、授業場面で多くの実践がなされた。 ②携帯電話・スマートフォンなど新しい情報機器における情報モラルの醸成について課題を把握し、保護者の意識向上に努めた。	成果と課題 ①パソコンの入れ替えにより、各教室のICT(情報通信技術)環境がさらに充実し、授業場面で多くの実践がなされた。 ②児童の情報機器活用能力が進んでいく中、それに伴うトラブルも避けられない状況を確認し、携帯電話教室の実施や、情報モラルについて指導し、判断力の育成を図った。	成果と課題 ①職員研修でタブレットを使った情報モラル研修を実施し、児童の情報活用の実態を把握した。また、携帯電話教室の実施や、情報モラルについて指導し、児童の情報活用能力の向上を図った。 ②各教室のICT機器を活用し、様々な授業場面で多くの実践がなされた。

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(返子市立小坪小学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

○学校教育総合プランの項目

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

2 地域に開かれた学校づくり

実施計画

①実施計画の重点等

・学校教育目標に対するPDCAサイクルの確立に努め、評価が次の活動の改善へとつながるように活用していく。

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- * 情報提供を適切に行い、保護者・地域の声に耳を傾けることで、相互理解を深める。
- * 地域との協働による学校づくりを志向していく。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	①学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域と課題を共有することで学校運営の充実を図る ②個人情報の保護に十分配慮しつつ、学校だよりやホームページで情報の発信を進める	①授業参観や「学校へ行こう週間」等保護者・地域への公開の場を活用し、学校教育目標や取組の実態などの周知を図る ②日常の授業だけではなく、研究会なども公開することにより、学校運営への理解を深める	①様々な公開において、意見を集約し、支援・協力を得るようにする。 ②個人情報に配慮しつつ、ホームページや学校便りによる、情報の公開をさらにすすめ、相互理解による協働体制を構築する。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった。
	成果と課題 ①行動目標について具体的な実践からの実効性について話し合いをもち、今後の方向性を決めることができた。 ②学校評価のためのアンケートを今後の教育実践の中で活かすことができるように工夫・改善を図った	成果と課題 ①「学校へ行こう週間」等で保護者、地域の方に学校の様子を公開することはできたが、そのねらいや取組の工夫等が伝わり、学校に対する理解が深まったとは言えない。 ②引き続き、アンケート項目の工夫改善に取り組んだ。	成果と課題 ①学校だよりや地域の会合等様々な場面で学校の教育活動の様子を情報発信し、協力を依頼してきた。 ②ホームページの更新に時間がかかり、タイムリーな情報発信が難しかった。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 地域教育力の活用	①地域コーディネーターを中心に、学校支援地域本部と連携を図り、学校教育の一層の充実をめざす ②保護者や地域にボランティア登録をすすめ、地域本部のネットワークづくりを推進する	①学校支援地域本部を通し、保護者や地域に求める活動の見直しを図り、より意義のある連携を推進する ②地域との連携を深める中で、地域素材の掘り起こしを進め、学習活動の充実を図る	①児童の地域参加をすすめる中で、教職員と保護者・地域の方々の円滑なコミュニケーションの推進を図る。 ②地域教育力の活用を年間計画の中に位置づける。
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した。
	成果と課題 ①学校支援地域協議会の充実を図り、積極的な問題提起を行い、コーディネーターを中心に積極的な活動を行った。 ②地域人材の積極的な活用は図ったがボランティア登録の働きかけには至らなかった	成果と課題 ①学校支援地域協議会の活動について見直し、独自の活動として校内の環境整備に取り組んだ。 ②地域人材の掘り起こしに努め、地域講師として活動してもらうことができた。	成果と課題 ①わかめの種付け、しめ縄づくりなどの活動を通して、地域の方とのコミュニケーションを図ることができた。 ②学校支援地域本部事業の年間計画の中に地域の方の指導を仰ぐ学習を計画

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	①学校教育目標における重点目標や行動目標の自己評価を活かし、学校評価の実効性を高める ②学校評価を生かして改善点を把握し、教育条件の整備を行い、それを保護者・地域に発信していく	①学校教育目標との関連という視点から、評価項目や評価方法の改善に取り組む ②学校評価に基づき、改善点を明らかにし、保護者・地域と課題を共有できるようにする	①PDCAサイクルの円滑な実施により、学校改善が図られているかどうかを検証する。 ②学校評価に基づき、明らかになった課題を次の3年間の計画に盛り込む。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ②行動目標について具体的な実践からの実効性について話し合いをもち、今後の方向性を決めることができた。 ③学校評価のためのアンケートを今後の教育実践の中で活かすことができるように工夫・改善を図った。	成果と課題 ①学校教育目標の具現化をめざした重点を設定し、それに沿った評価項目を設定した。 ②学校評価の結果を学校だよりで保護者・地域に発信し、改善点を明確にすることができた。	成果と課題 ①年2回の保護者・児童アンケートをもとに評価委員会での指導を受け、学校改善が図られているか検証した。 ②学校評価に基づき、課題を明らかにし、学校経営案に反映してきた。次年度からの計画にも反映していく予定である。

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(返子市立小坪小学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

○学校教育総合プランの項目

Ⅲ 教員の指導力の向上

1 教員研修・研究の充実

実施計画

①実施計画の重点等

- ・校内研究・研修の充実により、授業力の向上をめざす。
- ・授業を公開することにより得られる授業評価を積極的に活用し、授業改善を進める。

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- * 授業公開を積極的に行い、講師招いて指導助言を受ける等、授業研究を深め、これまでの取組をまとめる方向で進める。
- * 地域素材の教材化など、特色を生かした授業づくりを積極的に進める。そのために研修の機会を設定する。
- * 初任研の実施に当たっては全教職員が関わるなど、授業研究を通しての協働体制を確立する。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 授業研究の充実	①学習指導案の事前研究、研究授業、事後研究など、校内研究の充実を図る ②これまでの取り組みを検証し、成果と課題を明確にし、次につながるまとめをする	①研究テーマに基づき、6年間で育てたい力を明確にする ②校内研究を通して教員個々の指導力の向上を目指すとともに、チームとしての協働の意識を深める	①授業研究を通して、更に研究を深め、授業改善に取り組む。 ②学校全体としての指導力向上に向けた取り組みの成果を検証し、改善を図る。

(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
成果と課題 ① 学年・ブロックを主体とした授業研究が活発に行われた。 ② 市内だけでなく、近隣の地区にも呼びかけた研究全体会を実施し研究の成果と課題を発表することにより、次につながるまとめをすることができた。	成果と課題 ① これまでの研究の蓄積をもとに新たなテーマを設定し、算数における既習事項を軸に6年間の見直しを持てる体制を整えた。 ② ブロックの研究組織での取り組みを中心に全員が授業を公開し指導力の向上を図ることができた。	成果と課題 ① どの学年も授業提案を行い、授業研究会を行った。研究の成果を日々の授業に生かすことができた。 ② 授業研究会の成果や課題を各学年でまとめた。それらを、学校全体で共有する機会をもち、次年度の授業改善に役立てられるようにできた。

行動プラン ② 授業評価の活用	H25(2013)年度予定取り組み内容 ① 指導と評価の一体化について教員の共通理解を深め、授業改善に努める ② 校内研究を通し、授業評価を教員同士で行うことにより、研究に対する参画意識を高めた。	H26(2014)年度予定取り組み内容 ① 授業評価のあり方や活用する方法について、共通理解を深める ② 学校の教育力の向上につながるような授業評価のあり方を引き続き検討していく	H27(2015)年度予定取り組み内容 ① 指導と評価の一体化に基づくカリキュラムの改善を実施する。 ② 授業評価についても学校評価を行い、成果と課題を明らかにする。
(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	
成果と課題 ① 日々の授業参観や校内研究への取り組みにより、指導と評価の一体化については共通理解が図られ授業改善につなげることができた。 ② 学年、ブロックでの研究推進に意図的に取り組み、事前研、事後研の中で相互の授業評価が行われた。	成果と課題 ① 日々、授業のねらいの明確化を特に意識して取り組むことが共有されつつあり、目標に沿った授業評価が行われるようになった。 ② 引き続き、学年、ブロックでの研究推進に意図的に取り組み、事前研、事後研の中で相互の授業評価が行われた。	成果と課題 ① 指導と評価について意識した授業研究を行ったが、カリキュラムに十分反映されているとは言えない。 ② 学校評価アンケートや全国学力テストの結果を精査し、成果や課題を明らかにすることができた。	

行動プラン ③ 研修事業の充実	H25(2013)年度予定取り組み内容 ① 自主的な教員研修が行われるよう、支援体制づくりをすすめ、時間の確保や機材等、環境の整備を図る ② OJTを組織的に推進し、「チーム小坪」の協働を推進する	H26(2014)年度予定取り組み内容 ① 教職員のキャリア形成に資するような研修を実施し、指導力の向上を図る ② 校内研修の成果が学校全体の指導力の向上につながるように、組織的に取り組む	H27(2015)年度予定取り組み内容 ① 研修による指導力の向上が核となるような学校運営組織の改善に取り組む。 ② 教員の自主的な研修が、授業に活かされ、学校全体の指導力の向上につながるような体制作りを目指す。
(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	
成果と課題 ① 各分掌の中から必要な研修について自主的に設定するようになり、必要な環境の整備に努めるようになった。 ② 年齢・経験年数のアンバランスから、ミドルリーダーの育成が難しく、組織的にOJTを推進するには至らなかった。	成果と課題 ① 今年度の指導の重点から、必要な研修を計画し、積極的に取り組んだ。 ② 児童の実態や教員のニーズに沿った研修が設定され、日々の学級、学年経営に活かすことが出来た。	成果と課題 ① 指導力の向上を意識した研修を実施することはできたが、学校運営組織の改善までには至らなかった。 ② 普段から職員室内等において、指導力向上につながる自主研修のような形が見られるようになった。	